

第 24 回 65 期テニスの集い in 蕨

佐藤 徹郎(7 組)

日 時 2024/4/25 13:00~17:00

場 所 関邸付属テニスコート

参加者 関賢治(2 組)、原田義則(3 組)、布施修一郎(6 組)、宮澤憲一(10 組)、
若柳直人(4 組)、佐藤徹郎 とご近所にお住まいでお馴染みの三浦さん

前日とは打って変わって快晴の蕨駅、定刻 11 時 45 分に揃った上記 6 名は「藍屋」で昼食を認めたあと三浦さんの待つコートに向かう。

昨秋の軽井沢以来だが、健康上の理由で内堀君、中山君を欠いているのは寂しい。早期の復帰を願う。

よく手入れされたオムニコート上で記念撮影を済ませた後、全員がペアを組み替えてダブルス 6 試合を戦うリーグ戦が始まった。参加者全員が後期高齢者となった今年も、各々努力や修練を偲ばせる印象的なプレーが見受けられた。

弛まぬ努力、個性の伸長、強靱な意志の涵養、言うは易く行うは難し。関君はコートに立つこと週五日、宮澤君得意のスライスに悩まぬ者は少なく、また若柳君のコートカバーリングは他を圧倒する。ゲームの帰趨に必須でありいずれもテニスの真髄に迫ると言えよう。さらに勝敗の帰結とは別の醍醐味もある。ラリーの展開や相手の動きを予測して狙いすまして打つバックハンドダウンザライン。決まった時のカタルシスは無上だ。今日原田教授は再三やってのけた。筆者の報告を不審に思われる読者諸兄姉よ、次回は参加して真相を確かめましょう。

閑話休題。如上の達人たちの夢のような戦いも、時間の経過とともに様相を変える。高速度撮影の再生を思わせるシーンが多発するようになり、耳をすませば体の節々から 5 年前より間延びした音が聞こえてくる。(コーキコーキ)

ふと我に返ると日は傾き日程は終了していた。主な順位は以下の通り。

優勝 若柳君、準優勝 関君、3 位 三浦さん

後は公表の必要を認めない。勝敗は時の運でもあり、情けは人の為ならずとも言う。

いつもの「大庄水産」での懇親会は 17 時から。よく飲みよく食べて、いつものように和やかな時が流れ、談論風発して話題に事欠かないのもいつものことだ。塩田平の灌漑、信州の酒蔵に女性杜氏が目立つこと、佐久の五稜郭、青木村のワイナリー等、それぞれ興味深いものであった。

20 時、蕨駅頭に、十月の初島での再会を約し、握手して散会。楽しくも暑い熱い一日。

桜色にそめし衣をぬぎかけて山時鳥けふよりぞ待つ

和泉式部

ご同輩、夏はこれからだ。

次ページに写真二葉



試合開始前 左から 関、布施、助っ人三浦さん、若柳、宮澤、原田、佐藤



試合後の懇親会 左から 原田、布施、関、宮澤、佐藤、若柳